

ふくお環^{かん}ゼミ in なごや

～福岡の大学生を育てる産官学民連携～

小 出 秀 雄¹

1. はじめに：ESD ユネスコ世界会議の併催イベントとして開催

西南学院大学の「教育インキュベートプログラム」の一つである福岡超大学環境ゼミナール、通称「ふくお環^{かん}ゼミ」は、2014年11月10日(月)の午後、名古屋国際会議場の会議室において、「ふくお環^{かん}ゼミ in なごや～福岡の大学生を育てる産官学民連携～」(以下、ふくお環^{かん}ゼミ in なごや)と題するセミナーを開催した。本資料はその記録であるが、まずはこのようなセミナーが開催された背景について説明する。

ふくお環^{かん}ゼミ in なごやは、「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」の併催イベント「ESD 交流セミナー」の一つとして、文部科学省に採択された企画である²。2014年11月に日本において、日本政府とユネスコの共催による同世界会議が開催されるのを機に、「ESD 活動を行う NPO・NGO、企業、学校等団体」を対象に、同年7月1日から7月31日まで併催イベントの募集が行われた。

その結果、併催イベント全体で218件の応募が集まり、内容の審査を経て、セミナー21件およびパネル展示51件が採択された³。ふくお環^{かん}ゼミ in なごやはいくつかのカテゴリーのうち、「その他関連する学習」のセミナーとして採択されたが、ほかに大

1 西南学院大学経済学部経済学科教授、福岡環境学際フォーラム運営代表。本資料に関するお問い合わせは、<koide@seinan-gu.ac.jp>または<<https://www.facebook.com/hideo.koide.96>>まで。

2 文部科学省報道発表「「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」について」、平成26年10月27日<<http://www.mext.go.jp/unesco/001/2014/1353120.htm>>。

3 文部科学省報道発表「「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」併催イベント実施案件の決定について」、平成26年8月29日<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1351640.htm>。

学としては、同じカテゴリーで中部大学が、「環境学習」のカテゴリーで三重大学が、それぞれセミナー企画を採択された⁴。

ESD は“Education for Sustainable Development”，すなわち「持続可能な開発のための教育」の略称である。「ESD の花卉モデル」⁵ともよばれる図 1 で表現されるように、ESD と関連付けられる教育の範囲は広い。それゆえわかりにくい点は否めないが、日本政府による ESD の定義は、「私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育」である⁶。

また、日本政府は ESD の目標を、「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすことであり、その結果として持続可能な社会への変革を実現すること」（下線は筆者による）と定めている⁷。したがって、ESD はいわゆる環境教育（Environmental Education）の範囲にとどまらず、多くの教育分野に関連する取組であるといえる⁸。



図 1 ESD の概念図

出所：環境省「+ESD プロジェクト」トピックス〈<http://www.p-esd.go.jp/topics.html>〉

4 そのほかのカテゴリーは、国際理解学習、世界遺産や地域の文化財等に関する学習、気候変動、エネルギー学習、生物多様性、防災学習である。

5 阿部治（2010）「ESD（持続可能な開発のための教育）とは何か」、生方孝紀・神田房行・大森享編著『ESD（持続可能な開発のための教育）をつくる ― 地域でひらく未来への教育 ―』、ミネルヴァ書房、第1章。

6 「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議「我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画（ESD 実施計画）」、平成23年6月3日改訂〈<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/>〉、4頁。

2014年11月に岡山県岡山市と愛知県名古屋市で開催された世界会議は、2005～2014年の「国連 ESD の10年」(Decade of Education for Sustainable Development, DESD)⁹を振り返り、①10年間の成果から、②万人にとってよりよい未来を築くための教育の新たな方向付け、③持続可能な開発のための行動促進、④ポスト2014のための ESD アジェンダの策定、の4つを目標に掲げていた¹⁰。名古屋国際会議場での3日間の会議には千人以上の参加者が集まり、閉会全体会合において、「あいち・なごや宣言」(Aichi-Nagoya Declaration on Education for Sustainable Development) が全会一致で採択された¹¹。

写真1から写真4は、世界会議の直前に筆者が名古屋市周辺で見かけた、会議とその併催イベントを知らせる媒体である(2014年11月8・9日に撮影)。名古屋の玄関口である中部国際空港と名古屋駅をはじめ、市営地下鉄の駅構内と車両内、鉄道・バスの総合駅などに、かなり目立つ真紅のデザインとさまざまな形の広告が全面展開していた。中でも、全国規模の人気を誇る地元アイドルグループの大胆な壁面広告は、細かい遊び心が楽しい内容であった。



写真1 中部国際空港駅



写真2 名古屋駅前の建設現場

7 注6と同じ。

8 日本環境教育学会編(2014)『環境教育とESD』(日本の環境教育第2集), 東洋館出版社。

9 UN Decade of Education for Sustainable Development, 2005-2014<<http://www.desd.org/>>。

10 文部科学省資料<http://www.mext.go.jp/unesco/001/2014/_icsFiles/afieldfile/2014/10/29/1353120_01.pdf>。

11 文部科学省「ESDに関するユネスコ世界会議」成果<<http://www.esd-jpnatcom.jp/conference/result/index.html>>。



写真3 地下鉄日比野駅



写真4 金山（総合）駅

既刊の資料で示したように¹²，ふくお環^{かん}ゼミの目的は環境教育そのものの実践ではなく，環境問題の学際的な理解を通じた大学生の基礎能力向上である。したがって，ESD 交流セミナーに応募する際，少し迷ったのは事実である。

ふくお環^{かん}ゼミでは，大学や専門分野を気にせず，毎年施設見学会に行ったり，勉強会や研究発表会を開催したりするなど，学生同士が環境問題に対する理解を深め，自発的に行動している。加えて，産官学民それぞれの世界で活躍する社会人が参加し，学生の活動に関わることで，社会人は学生の斬新な視点や高い潜在能力に目を見張る一方，学生は社会に貢献できるのだという手応えを得る。とはいえ，これら一連の取組がESDに該当するかどうかは，筆者自身がESDについて不勉強ということもあり，正直わからなかった。

このようなことを考えつつ，不採択になっても趣旨が違ったということで仕方ない，という決意で応募したところ，福岡という中央から離れた地域，そして大学間での取組が珍しかったのか，それとも図1の出所である環境省の「+ESD プロジェクト」に登録していたのが功を奏したのか¹³，われわれのセミナー開催案は採択された。一方で，相当な意気込みと実績をもとに応募したが不採択となった団体も，きっと多かったであろう。

今回，大学という大きな組織によるセミナー提案だけではなく，大学の中のごく小さな組織，すなわちゼミの連合による提案が採用されたということは，なかなか興味

12 第4節を参照のこと。

13 2014年5月，+ESD プロジェクトのホームページに，福岡環境学際フォーラムの支援事業として登録したくhttps://www.p-esd.go.jp/search_support_detail.html?support_id=35。

深い。大学の中でもほとんど知られていないような無名の教育的取組であっても、インターネットを利用し積極的に情報発信をすることによって、大きな舞台で取り上げられる可能性があるのだ、ということがわかった。もちろん、無名であることには何ら変わらないので、より多くの方々に知ってもらうことは引き続き課題である。

ふくお環^{かん}ゼミが世界会議の併催イベントで自ら会合を催すことなど、このゼミを考えた当初はまったく想定していなかった。ふくお環^{かん}ゼミに関わっている学生や社会人と日々試行錯誤を重ねることによって、そして学内外で与えられたチャンスをものにしていくことによって、さらに大きなチャンスが得られるという体験ができた。ESDを専門とされている先生方には申し訳ないが、筆者は今回の出来事を機に、ESDについて学生と深く学ぼうと決意した。

2. ふくお環^{かん}ゼミ in なごやの記録

以下は、今回開催したセミナーの記録である。当日撮影したビデオの音声をもとに、筆者が文字起こしを行ったあと、その草稿を各発表者に校正してもらった。手元に原稿が用意された発表については、その文面を尊重しつつ、実際の発言のニュアンスにできる限り近づけた。また、質疑応答とまとめについては割愛した。

写真5と**写真6**は、セミナー開始前に、筆者が会場周辺を撮影したものである。また、以下の**写真7**から**写真14**は、西南学院大学教育・研究推進課の金子靖弘氏が撮影した。ただし**写真12**は、筆者が事前に録画したビデオからキャプチャした。



写真5 会場入口

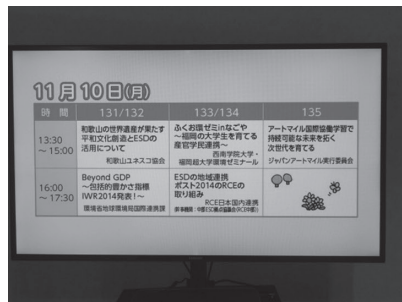


写真6 セミナーの告知

図2は、当日会場で配布した資料の表紙である。配布資料が多いと参加者の視線がどうしても手元に行ってしまうため、印刷は18ページのモノクロにとどめ、できるだけ発表者とスクリーンに注目してもらえるよう配慮した。以下では、スクリーンに映した画像をいくつか紹介する。

【その他関連する学習】



ESD コネスコ世界会議併催イベント・ESD 交流セミナー
 日時：2014年11月10日(月) 13:30～15:00
 会場：名古屋国際会議場 1号館 3階 133/134

ふくお環^{かん}ぜミ in なごや～福岡の大学生を育てる産官学民連携～



【概 要】

「ふくお環^{かん}ぜミ」(福岡超大学環境ゼミナール)は、福岡市に所在する西南学院大学教育インキュベータープログラムの一つとして、経済学部の小出秀雄ゼミが中心となって進めている、学生の基礎能力を向上させるための取組です。

福岡都市圏には多くの大学があり、多くの講義やゼミ・研究室において、環境問題を学ぶことができます。とはいえ、環境問題は自然科学・社会科学・人文科学におよぶ学際的な知識と思考を必要とするため、閉じたゼミ等で学生が得られることには限界があります。

このセミナーでは、産官学民連携を活用したふくお環^{かん}ぜミの活動を学生たちが自ら紹介し、日頃関わっている社会人がコメントして、今後の展開に向けた提言を行います。

《後 援》西南学院大学



【出演者等】

	所 属 機 関	役 職	氏 名
報告 1	西南学院大学経済学部	教 授	小出秀雄(セミナー責任者)
報告 2,3	西南学院大学経済学部・法学部	4 年	前田一美、梅野遥菜、寺田沙織、積葉以子
報告 4	西南学院大学法学部	3 年	安倍朋弘、長谷川春輝
コメント 1	(公社)福岡県産業廃棄物協会	課 長	岡 重男
コメント 2	福岡市環境局環境政策部政策経営課広報啓発係	係 員	貞富まどか
司 会	西南学院大学経済学部	3 年	池上昌彦、赤司福介
スタッフ	西南学院大学経済学部	3 年	友田光俊、片山佳祐、吉田耀介

【タイムスケジュール】

13:00 開場	13:30 開会挨拶 & 報告1「ふくお環 ^{かん} ぜミのねらいと実績」
13:40 報告2「ふくお環 ^{かん} ぜミの運営に関わって」	
13:55 コメント & 提言1	14:05 質疑応答1
14:10 報告3「道真と縁に触れるぐるり旅～エンジョイコミュニケーション」(ふくお環 ^{かん} たびグランプリの紹介)	
14:25 報告4「地域環境政策に対するネクストジェネレーションの視点」(勢一智子ゼミ共同研究の紹介)	
14:35 コメント & 提言2	14:45 質疑応答2
14:50 まとめ & 閉会挨拶	15:00 終了

【参加者へのメッセージ】

福岡から来た大学生が、司会や運営も行います。お気軽に遊びに来てください！！

HP→ <http://fukuokagakusai.com/fukuokanzemi/> ブログ→ <http://fukuokanzemi.seesaa.net/>





図2 当日の配布資料の表紙

また、このセミナーの準備と進行には、以下の本学の学生と教職員が関わった。

- *司 会：池上昌彦，赤司福介（西南学院大学経済学部3年，写真7）
- *スタッフ：友田光俊，片山佳祐，吉田耀介（西南学院大学経済学部3年，写真8）
- *学生支援：勢一智子（西南学院大学法学部法律学科教授）
- *学内事務：金子靖弘，大久保祥子（西南学院大学教育・研究推進課課員）



写真7 司会2名



写真8 スタッフ3名

①報告1：「ふくお環^{かん}ゼミのねらいと実績」

小出秀雄（西南学院大学経済学部教授，写真9）

みなさんこんにちは。福岡市にある西南学院大学からやってきました。今回、セミナーをESDの関連で開催させていただくこととなりました。

まずは、受付でお渡しした資料を、念のため確認させていただきます。

小さい方からですが、三つ折りのパンフレットが2種類あります。一つは、「ふくお環^{かん}ゼミ」と書かれている緑のパンフです。もう一つは、「えっ!?こんなよかとこあったんだ!」というパンフです。これは報告3で、参考資料として用います（後掲の図5と図6）。

次に小さいものは、「ふくお環^{かん}ゼミ」の超大学イベントの実施状況」という冊子です。これは2014年3月、西南学院大学の紀要（経済学論集）に記録資料として書いたものであります。あとでご笑覧いただければと思います。

そして、一番大きいA4の留めてあるものが、本日のセミナーにおける資料です。もし何かないということがありましたら、お申し付けください。

ではまず、私が簡単に、ふくお環^{かん}ゼミとは何かということについてご紹介いたします。そのあとは、経済学部と法学部の学生さんが細かいことを話してくれる予定

です。

字が妙な配置になっておりますが、ふくお環^{かん}ゼミという名前は駄洒落です。「福岡超大学環境ゼミナール」という名前をそのまま使いますと、私自身も忘れてしまいますので、そこをギュッと縮めたのがふくお環^{かん}ゼミ、ということです。

次に、ふくお環^{かん}ゼミのイメージです。大学を超えて、環境問題について勉強している学生同士が定期的に会って、意見を言い合って、あるいは研究発表をし合って、お互いに仲良くなっていきます。そして、お互いの研究分野についてなるべく理解しよう、という取組です。図の真ん中に、西南学院大学と書いてあります。本日は私のゼミ生が何人も来ておりますが、その経済学部とのゼミと、法学部の行政法・環境法を勉強している勢一ゼミの連合であります。

右側の緑で囲ったところは、文系のゼミ・研究室です。福岡工業大学は工業大学ですが、文系の学部があり、環境経済学を学んでいる鄭ゼミとコラボしています。また、九州産業大学の経済学部には本間ゼミがありましたが、2014年4月に本間先生が神奈川県¹の大学に異動されました。ここのゼミともいろいろやりました。

一方で、環境問題は当然、理系の研究テーマでもあります。理系の学生さんともぜひ一緒に勉強したいということで、廃棄物を研究している九州大学と福岡大学の研究室の、一部の学生さんに参加してもらっています。理系は理系ならではの事情がありまして、多くの学生さんと仲良くなるのは実際難しいのですが、こういう形で文系・理系合わせて環境問題を勉強しよう、というプロジェクトです。福岡市内、福岡都市圏には多くの大学がありますが、その一部の大学のゼミ・研究室がコラボしている、ということです。

ふくお環^{かん}ゼミの目的を、3つ挙げます。これらは設立当初、つまり今から2年半前に作った目的です。

一つ目はすでに申し上げましたが、学生が分野を超えて、同じものを見て、意見を言い合うということです。

二つ目は、実はけっこう難しいのですが、文系の学生が理系のやっていることを理解する、例えば廃棄物の分野であれば、埋立処分場の遮水シートの構造を研究している学生の話聞いてなるべく理解しよう、ということです。あるいは理系の学生が、経済学関係の話聞いて理解しようとする。これは、理解する努力をしようということで、完全に理解するのは不可能です。できるだけやろう、ということです。

三つ目は、学生の側だけが努力するのではなく、教員もそれを見て学び、実践して

いくということです。これは実際、いろいろやっています。例えば、小出ゼミのこれがなかなか効果的だからうちでもやってみようとか、あるいは逆に、小出ゼミがほかでの取組をアレンジして取り入れるとかです。

本日のような進捗発表の機会が、たびたびあります。2013年11月、九州大学において、教育改善の成果報告会（Q-conference2013）がありました。ほとんどがポスター発表でありましたが、このとき小出ゼミの3年生有志が、ポスターを持ってステージで話してくれました。自分たちのやっていることを3分間で猛烈にアピールする、というなかなか難しい課題でしたが、非常にうまくやってくれました。福岡工業大学の学生さんも、大学祭の期間中ではありましたが駆けつけてくれました。本学の学生と一緒に、ポスター発表を手伝ってくれました。

このふくお環^{かん}ゼミは、西南学院大学の補助事業でありまして、3年間で240万円という規模でやっています。基本的には、やりたいことをやっています。学生さんが考えるとき、あるいは私が考えるときもありますが、とにかく、ふくお環^{かん}ゼミという名目でいろいろなことをやっています。

このスライドの一番下に、エフコープ環境助成金と書いてありますが、このときは外部資金20万円を獲得して、企画コンテストを行いました。2013年6月に予選会をやって、11月に決勝戦を行いました。本日報告3では、コンテストでグランプリを獲得した3名のチームのプレゼンがあります。ただ本日は、2名が就職先の事情で来ることができませんでしたので、録画したビデオを使ってプレゼンをご紹介します。

大きく分けて2つのことを、ふくお環^{かん}ゼミでは行っています。

一つは、全体の取組です。だいたい3カ月に1回くらいのペースで、イベントを開催しています。夏は1泊2日で、施設見学会に行きます。その計画を学生さんにリクエストしてもらったり、チラシや「旅のしおり」を作ってもらったりしています。そのほか、勉強会や研究発表会を開催しています。詳しい内容については、お手元の小さな冊子をご覧ください。いろいろな大学、学部の学生が関わってくれています。

「なつのおべんきょうかい」という、ちょっと変わったタイトルのイベントがあります。私がウミガメのコスプレをして、ここに私の子ども2人が写っています。これはどういうイベントかといいますと、絶滅の危機に瀕している里山動物を身近に感じるための絵描き歌の本とCDが出版されていて、それを使ってみんなで絵を描こう、ということです。作者の原賀先生は絵が大変お上手で、この方に直接レクチャーしていただいて、子どもと大学生と一緒に絵描き歌を楽しむという、世代を超えたイ

ベントでした。

一方で、大きなイベントだけをやるだけではなく、普段から地力をつけていくことをやっています。これが、小出ゼミにおける日常の取組です（図3）。一番上は、自分の好きなことを、パソコンを使わずに、口頭と板書だけで伝えるということです。左の写真は、アメリカンフットボール部の学生が、アメフトとラグビーの違いを説明している様子です。

なぜこういうことがよいかというと、専門分野のことを質問されると「わかりません」と答えることがよくありますが、自分の好きなことについて話すのは当然得意でありますし、質問があったとしても即座に答えられます。この取組によって、話す自信をつけていくことが実際にできています。その結果、専門分野のプレゼンにもよい影響が出ていると思います。

また、ゼミの一般公開を行っています。大学のゼミというのは、結構閉鎖的です。小出ゼミの場合は現在、完全にオープンな状態でやっております。誰が来ても構いません。毎回来てくれている他大学の院生もいますし、他学部 of 先生がちょっと見に来ることもあります。これによって人見知りをしないというか、いつでも平常心で話ができるような基礎を作っています。

勢一ゼミは法学部のゼミで、今年度いろいろな取組をされています。詳しいことは報告4で、3年の学生さんが濃密に話してくれますので、そちらに譲ります。

以上のように、ふくお環^{かん}ゼミは基本的に、学生が自分で考えて自分でやっていく場です。この取組を、大学に広報してもらっています。このように、入学案内の経済学部のページにも出ています。この記事を見て経済学部を受験しよう、という人はたぶんゼロだと思いますが、このように紹介してもらっています。この『西南学院 Walker』という雑誌は書店で売っていませんが、こういうところにも掲載してもらっています。

このスライドは、最近の企画です。

4年生は卒業論文を抱えていて、今苦悩の日々を送っているわけですが、卒論指導の1コマを、腕相撲対決に切り替えました。学生と社会人の計4人が総当たり戦で腕相撲をして、アメフト部の学生が1位になりました。一番勝ったので一番プレゼン時間が長い、というルールです。彼は「アメリカンスポーツ」というタイトルで、主にアメフトの魅力をたっぷり紹介してくれました。腕相撲をやって疲弊したあとでプレゼンをして、学生みんなでわーっと手を挙げて質問するという、一種のスポーツイベ

ントで盛り上がりました。

ふくお環かんゼミの各論的なことを、このあと学生がお話します。ホームページやブログなどに、ほとんどの情報を出していますので、ご参照ください。私が取組責任者をやっておりますので、いろいろご質問などがございましたら、お気軽によりしくお願いいたします。

ちょっと長くなりましたが、以上で私のお話を終わります。ご清聴ありがとうございました。



写真 9 報告 1



写真10 報告 2

小出ゼミの取り組み（抜粋）

- ①自分の好きなことを板書と口頭のみで伝える
- ②ゼミの一般公開（後期、および卒論構想発表）
- ③卒業論文集の発行、学内外への配布



図 3 報告 1 のスライド



図 4 報告 2 のスライド

②報告2：「ふくお環^{かん}ゼミの運営に関わって」

前田一美（西南学院大学経済学部4年，写真10）

私は，西南学院大学経済学部経済学科4年生，小出ゼミで幹事をしております，前田一美と申します。私はこのふくお環^{かん}ゼミにおいて，昨年度は渉外を担当し，今年度は幹事をさせていただいております。今回，私は「ふくお環^{かん}ゼミの運営に関わって」というタイトルで，お話させていただきます。

はじめに，私がふくお環^{かん}ゼミに参加した理由を述べたいと思います。

まず，学内だけでなく，学外での活動があるということが魅力だと，私が感じておりました。私の所属するサークルでは，長崎や熊本など九州他県の大学との連合がありまして，そちらで大学の代表として仕事をさせていただきました。そのときにやはり，自分の大学以外の人と話すことで自分の見聞が広がるということがありましたので，このゼミを志望いたしました。

また，経済だけでなく，環境ではほかの分野についても知識を求められますので，法律や地理的要因，また工学などの知識が自分に身に付くのではないのか，と思いました。

さらに，このゼミでは「公開ゼミ」をしていたり，施設見学会を行ったりしています（図4）。施設見学をするだけでなく，最後に他の大学や学年の方と集まって，合宿で何をしたかという報告をしております。このように，人前で話をする機会などを得ることができたので，人としての自分の成長も得ることができたのではないかと、と思っています。

ふくお環^{かん}ゼミの運営に関わることによって私が得たものはたくさんあるのですが，特に3点，ここで述べさせていただきます。

一つ目に，環境問題への関心の向上です。環境問題というのは，人によって意見が全然違うと私は感じております。ですので，自分と違う意見を持っている方や，自分とは異なる視点を持っている方に，自分の報告を聴いていただき，それに対する意見をいただくことで，よりいっそう勉学に励むことができるのではないかと思います。

二つ目に，先ほども述べましたが，学外での活動がありまして，特にこのゼミは他学部の方や他大学の方，また企業の方との関わりもあります。大学生活で出会う機会がなかったかもしれない方々と，環境問題についてのお話もありますが，人としてのお話をすることも多かったなので，その方々と仲良くなることで，環境問題だけでなく

自分の成長や、新しい取組などを実現できたのではないかと考えています。

三つ目に、運営側として、幹事としての行動を挙げます。幹事として重要なのが、連絡の方法にあると思います。

私は2013年度に渉外を務めていたのですが、そのとき秋期勉強会での講師と、直接連絡を取ることにになりました。当時大学3年生で、まだ就職活動もしていませんでしたので、マナーも全然わからない状況で、急に連絡をしなければならないという状況になりました。そのときに、メールの仕方や電話の仕方など、勉強する機会を得ることができました。

また、企業の方とお話するときも、それこそ名刺の受け取り方も知らなかったのですが、きちんとそれも習いました。社会人として身に付けておかなければならないことを、大学生のうちに経験できたのではないかと、思っています。

ふくお環^{かん}ゼミに参加して得たものはたくさんあるのですが、中には、私が運営に関わることによって感じた反省点もあります。

一つ目は、イベントに対して、ゼミ生の参加の少なさが正直あります。これは意識の差から生まれてしまったのかな、と運営をしながら思っています。

二つ目に、イベントの集客の難しさを痛感しました。

改善点として、ゼミ生が自分たちは運営であるという自覚を持たなければいけない、と思います。今回私が運営の代表としてお話しておりますが、このゼミ運営は役職があるから、ということではなく、ゼミ生全員でやるべきだと私は思います。自分だけが運営をやっていると思われたくはないですし、みんなにやってほしいという気持ちがありました。役割分担をしてみたり、あるいはゼミ生が来られないときに「ほかのことでしょうか？」と言ってくれたりします。そういう意識がみんなに芽生えることが、イベント参加の向上につながるのではないかと、考えています。

イベントの集客に関してですが、現在イベント周知のPR方法は、Facebook、学内外のホームページ、ブログなどです。また、ポスターも作成しているのですが、それでもやはり、経済学部生の一部しか周知されていないことがあります。西南学院大学の他学部や他大学の学生、企業の方、一般の方が来られるように、より広い範囲でイベントをPRすることを模索していかなければなりません。これは今後話し合いをすることによって、学生ができるPR方法を実行していきたいです。

私はこのゼミに参加していなかったら、このように人前でお話することや、環境について分野を超えて話し合うこと、またイベント運営の発案から実行までこなすとい

う機会を得られなかったと思います。運営をすることで、責任感が身に付きます。このように人前でお話することはとても苦手だったのですが、なんとか形にはなったのかなと思っています。来年は社会人になりますので、今後この経験を活用できたらいいなと思っています。

ふくお環^{かん}ゼミをより多くの方に知ってもらい、また参加をしてこのゼミが発展することが私たちの務めになりますので、これからも運営幹事として、次の学年に引き継ぎたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。私からは以上です。

③コメント&提言1：岡重男（福岡県産業廃棄物協会課長，写真11）

福岡県産業廃棄物協会の岡と申します。まずスライドとは関係なく、コメントだけ聞いていただければと思います。

今お話を聴かせていただきまして、私もいろいろな大学の先生方や組織の方と交流があるのですが、この勉強会は、非常にオープンな形で、どちらかというと「軽い」感じで、堅苦しくなくやっているのだなというのが感想です。大学間で連携してやるときに、やはり責任問題とかお金の問題とかいろいろあって、みなさん嫌がられるのですが、そのあたりをうまくやられていて、2年半も続けられているということです。そういう意味では、フットワークの軽い勉強会だな、と思いました。

また、大学の先生だけではなく、社会人の方も多く関わっているということで、専門科目の勉強だけでなく、実務の話などは学生さんにとってはいい経験になっているのではないか、と思います。

勢一ゼミの方では、行政との意見交換会をやられていますね。やはり学生さんが学んだことをどこかに発信できる場がある、というのがまたいいですね。もちろん研究会で発表もされていますが、何かしら行政の施策に結びつくとか、若い人の意見だということと言っているのが、これまたいい感じです。

次に、前田さんの報告に対してのコメントです。

大学ではどうしても学生さんがお客さんになりがちですが、前田さんは実際運営側に回っています。ただ、反省点にもありましたが、やはり参画するという難しさですね。学生さんは勉強も遊びもして、アルバイトもする中で、自分のゼミとはいえ、どこまでこう入り込めるかということを、みなさんと考えていかなければならないと思います。

そして周知の方法です。人が集まらないということですが、これはこれから、心得ている方々がESDの魅力を発信していったって、こんなに大事な勉強なのだ、大事な情報なのだと発信して、いろいろな方々に関わってもらう、ということになります。

以上がコメントであります。これからは提言ということで、ちょっとお話をいたします。

はじめに、大学生に関してです。

ここにいらっしゃる方には釈迦に説法ですが、+ESDプロジェクトサイトより、図を取ってきました。ここに書いてある通りで、地域の将来性や世界の問題、持続可能な開発、持続可能な経済、持続可能な環境ということをみんなでちょこちょこ意識して勉強していきましょう、そういう思考を創っていきましょう、ということがESDです。

では、それを大学生という今回の枠組みではどうすればよいか。

私もそうですが、理系の方は専門的な知識を仕事に結びつけるというか、大学で学んだ知識やスキルをそのまま仕事に生かすことができるのですが、文系の方はその点が少し難しいです。自分の将来の職業や生きていく中で、今回やっていることが何に関連しているかということ自分を自分で気づく、あるいは自ら気づいてほしい、ということですね。そして、自ら気づくためにはどんなプログラムを用意したらよいか、ということがあります。教育という面では、そこを工夫しなければならないと思っています。

腕相撲をしてプレゼンをして、とこういうのもあるのだよ、ということを経験します。そして、「ああ学生るとき腕相撲があったな、あのとき環境のことを勉強したな」という話を、気づきながらやっていくということです。一番いいのは、そこで①知識を得ますし、②考えます。そこで、③変わり、行動すること、というステップまで行けば、ESDの伝播というか、広がりが出てくるのではないかと、思います。

次は社会人です。

今回のゼミや研究会でも、いろいろな社会人の方が来られて報告をされているということです。なぜこの方々はそこに来られているのか、ということを私は考えたいと思います。私が何か出ていくときには、もちろん組織の人間として、要求に応じて出ていくこともありますが、こういったフリーな学生の勉強会の中で、いかに社会人として出ていくかということは、非常に面白いテーマだなと思っています。

社会人は、いろんな経験をされています。年齢によっていろいろありますけれども、

その豊かな経験を持った社会人の方が、学校の教育に関わっていないのは、とても「もったいない」ことだと思っています。学問を教えるというよりは、何かしら人生の知恵や経験を語るといったことで、みんながみんな携わってほしいと思います。

ESD を実践するためにも、社会人の方々が自分の時間の何%かを決めて、教育に振り向ける必要があります。例えば私の場合、一生ある時間の3%ぐらいは教育に、と思っていますが、そういったことをみなさんがやっていけば、今から変化するのではないかと思います。

社会人の方が関わることによって、自分たちの方でも学ぶこともあり、自分のキャリアにも生かせるのではないかと思います。

私もいろいろな場に行きますが、学生さんの話といたしますか、このあとちょうど「ネクストジェネレーションの視点」という言葉が出てきますが、「若い人はこういう視点でものを見るのか」と気づくことがあります。20歳くらいしか年齢は違わないのですが、これからずっと20歳差で一緒に生きていくパートナーであります。そういった若い人の知識も、ぜひ学んでおきたいと思います。

そして、大学生と社会人の両方に考えてほしいことです。

これは、先ほどの2つの話をまとめたものになりますが、やはり「自分の位置」を考えることです。今自分が仕事や家庭や社会の立場で、自分という人間がどう関わっていて、これからどう関わっていくのか、ということです。

ESD に限らず何でもそうですけれども、いろんな生活をしていく中でふと気づいて、「あれ、このままじゃやっていけないよね？ これは十年後はあるのか？」といった思考を身に付けることで、じゃあどうすればいいかという行動に移すことができるのではないかと、思います。

今大学でこういうゼミをやっているからとか、たまたまここに携わっているからとかではなくて、自分らしく生きる中で、地球市民という意味で、どんどん学びを続けていく人になる。環境問題もそうですし、経済問題もそうですし、人口問題もそうです。刻々と世界は動いていますので、そのトレンドをしっかりとつかみながら、ちょっと先を見ながら学ぶ、ということを継続することによって、本当によい未来を創る担い手を育む教育ができるのではないかと、思います。若い人たちだけでなく、私たち社会人もそうです。

以上を、私の提言とさせていただきます。



写真11 コメント&提言1

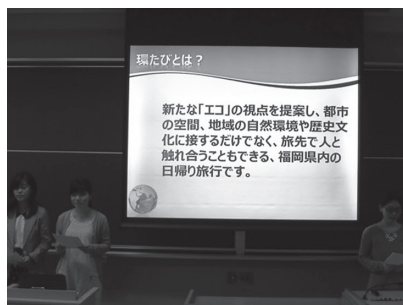


写真12 報告3

④報告3：「道真と緑に触れるぐるり旅～エンジョイコミュニケーション～」

梅野遥菜（西南学院大学経済学部4年）、寺田沙織（同経済学部4年）、
積菜以子（同法学部4年）（写真12）

今から発表を始めます。発表者は、西南学院大学経済学部経済学科4年生の梅野遥菜と寺田沙織、法学部法律学科4年生の積菜以子です。お手元にお配りした、2点の配布資料をご参照ください（図5～図7）。



図5 三つ折りパンフ外側

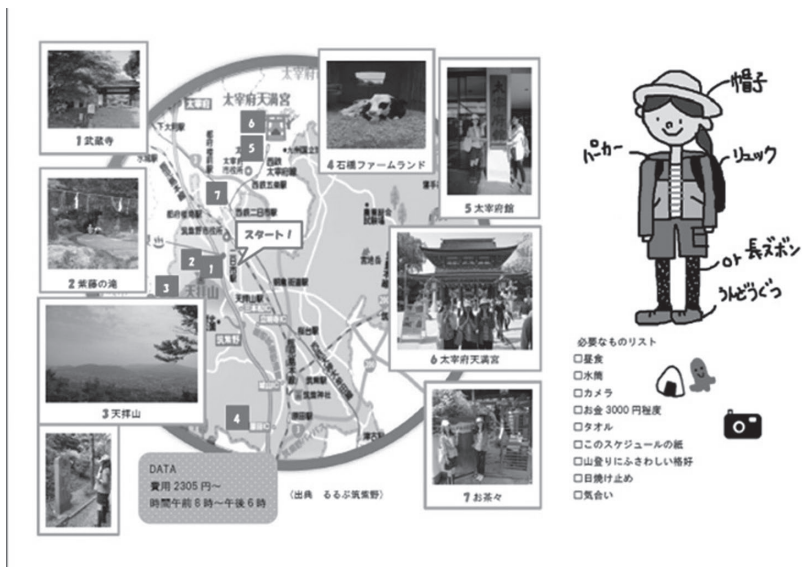


図6 三つ折りパンフ内側

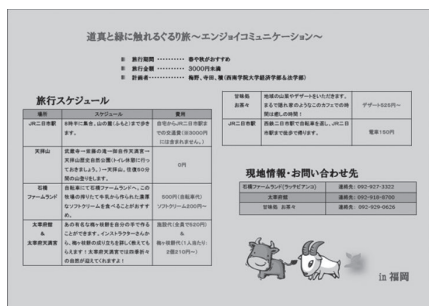


図7 旅のスケジュール



図8 報告3のスライド

私たちは今回、ふくお環^{かん}ゼミの一環として、「ふくお環^{かん}たび」コンテストに参加しました。「ふくお環^{かん}たび」とは、新たな「エコ」の視点を提案し、都市の空間、地域の自然環境や歴史文化に接するだけでなく、旅先で人と触れ合うこともできる、福岡県内の日帰り旅行です。私たちは、太宰府・筑紫野エリアを選び、「道真と緑に触れるぐり旅～エンジョイコミュニケーション～」と題した旅のプランを企画しました。

私たちはこの旅のプランを作る際に、「エコ」の言葉の意味を調べました。エコとはもともと、エコロジー（ecology）のことです。エコロジーとは生態学という意味で、生物や環境にいいことを指します。また、エコノミー（economy）の意味でも使われます。エコノミーとは、経済のことです。これらは、一方だけが発展してもうまくいきません。環境を守ることが経済の発展にもつながるので、この両者が釣り合うことが大切なのです。

次に、この旅に適した服装を紹介します。理想的な格好として、日よけのための帽子、体温調節できる上着、両手が空くようなリュックサック、長ズボン、運動靴が適しているといえます。「山ガール」という言葉がありますが、アウトドアになじみがない方でも、この旅はファッションの視点からも楽しむこともできます。詳しい格好と持っていくものは、パンフレットにも記載していますので、そちらをご覧ください。

では、旅の具体的なプランを紹介しましょう。

まず、JR 二日市駅をスタートし、徒歩20分で一つ目のスポット・武蔵寺（ぶそうじ）に行きます。武蔵寺は天台宗の寺で、九州最古の寺として有名です。建立は、飛鳥時代・奈良時代ともいわれ、藤原鎌足の子孫である藤原虎麻呂（ふじわらとらまろ）が建立したといわれています。

境内の中にある藤は、1300年の歴史があり、筑紫野市指定の天然記念物となっています。例年4月末～5月の初旬（連休の時期）が見頃となります。実際に私たちも藤の花を見たのですが、新緑の季節にピッタリな見事な藤でした。境内の雰囲気にもすごくマッチしていて、思わず写真を撮りたくなる場所でした。

二つ目のスポットは、紫藤の滝（しとうのたき）です。武蔵寺の入り口近くにあるこの滝は、菅原道真が太宰府に左遷され、天拝山に登り、無実を訴えた時に身を清めたといわれています。実際行ってみると、気づかずに通り過ぎてしまいそうなとても素朴な滝でしたが、その素朴さが道真の当時の心境を表しているようにも思いました。身を清めたい方は、ぜひ足を運んでみてください。

三つ目のスポットは、いよいよ天拝山です。天拝山は、道真が無実の罪を晴らすために山頂に登って天に拝んだ、という伝説からこの名がついています。標高は258m、徒歩50分ほどかかります。それほど高い山ではありませんが、その日の体調や天候を考慮して、自分に合ったペースで登ることをお勧めします。

登山道の入り口近くには、天拝山歴史自然公園があります。池上池を中心に、周囲にはつつじ園、しょうぶ園、万葉植物園などがあり、季節の花を楽しみ、のんびりす

るにはお勧めの場所です。私たちが訪れた8月上旬は、つつじが満開でとてもきれいでした。

また、登山道の入り口近くには、荒穂神社の大きな鳥居がそびえ立っています。鳥居の奥には覆いかぶさるような森林が幻想的な雰囲気醸し出し、登山者たちを迎えてくれます。

この登山では、自然に触れるネイチャー体験が豊富です。生息する野鳥や木の名前を当てるクイズなど、動植物に関するクイズが所々にあり、自然を楽しく学ぶことができます。登る途中には、号数ごとに道真の残した歌があり、歴史の足跡をたどることもできます。

また、この天拝山の魅力の一つは、「山コミュニケーション」です。登山者同士であいさつが活発に交わされ、「がんばれ」や「あともう少し」など声を掛け合い、山を介したコミュニケーションで人とのつながりが感じられます。

山頂は、平地と3～5℃の気温差があり、自然の清涼感を肌で感じるができます。精神的にも達成感や充実感に満たされ、また登りたい、と思わせてくれる山です。プランの中では、ここで昼食をとることになっています。山頂からの景色を見ながら食べるおにぎりは、格別でしょう。注意点としては、食べた後のごみを各自持ち帰るようにしてください。

さて、駅に戻って今から行くスポットは、石橋ファームランドです。ここからは、駅でレンタルできる自転車を使い、牧場まで向かいます。雨天時は電車を利用しますが、自転車では、牧場に近づくにつれて増えるのどかな景色や緑のにおいを、より肌で感じるができます。

では、牧場について紹介していきましょう。

牧場に入ってまず目に入るのが、ウサギや牛などのかわいい動物です。特に、牧場の奥には大きな牛舎があり、立派な牛をたくさん見ることができます。ところで、牧場で牛を見ると、乳搾り体験をしたい人もいると思うのですが、ここでは乳搾りは行われていません。乳搾りの際に手についている雑菌などで病気になるリスクを抑えるために、スタッフの方だけで行っているのです。せっかく牛がたくさんいるのに乳搾りを行わないのはもったいないと思いましたが、そのようなこだわりを持っているからこそ、おいしい牛乳が作れるのだと思いました。

また、牛舎のそばに、大きな土の山を見ることができます。これは、牛のふんで作られた堆肥です。この堆肥は、地元農家の方が野菜を作る際に役立っています。そし

て、高齢の方が多い農家に代わって委託販売をしているので、毎朝採れたての新鮮野菜を石橋ファームランドで買うこともできます。もちろん無農薬なので、安全面から安心なおいしいお野菜ばかりです。

そして、ファームランド内のお店では、こだわりの新鮮牛乳を使ったソフトクリームが楽しめます（図8）。私たちが訪れたのは夏の暑い時期でしたので、より一層おいしく感じられました。ほかに、チーズやプリン、クッキーなど、牛乳を使ったお菓子や料理が豊富ですので、立ち寄った際にはぜひご賞味ください。

次は、自転車で太宰府に向かいます。

太宰府と聞いたら、何をイメージしますか？ 太宰府天満宮や参道沿いのお店をイメージする人も多いと思いますが、今回私たちが紹介したいのは、太宰府市地域活性化複合施設である太宰府館です。ここは、貸し館事業や観光案内、イベントなどを通じて、市民と観光客の交流の場となっている建物です。修学旅行生、子供連れ家族、おじいちゃん・おばあちゃん、外国人観光客、老若男女楽しめる場所です。

私たちの旅では、ここ太宰府館で、梅ヶ枝餅づくりを体験します。梅ヶ枝餅協同組合のインストラクターさんが、梅ヶ枝餅の歴史について丁寧に説明してくださったあと、実際に自分たちの手で梅ヶ枝餅を作ります。ちなみに、1週間前までに予約が必要です。

環境に関連する点としては、太宰府館は建設当時から太陽光発電を導入しており、一日に70~80kWの発電を行っています。この案内パネルは、建物に入って右側にあります。ただいまの発電電力、本日の発電電力量が表示されており、エネルギーの「見える化」が行われています。

次に、みなさんがよくご存知の、太宰府天満宮を訪れます。

「学問・至誠・厄除けの神様」として、日本全国はもとより、広く世のご崇敬を集め、年間に約700万人の参拝者が訪れています。

四季折々の自然に囲まれている太宰府天満宮は、いつも違った雰囲気でお私たちを迎えてくれます。1月から3月は梅、3月から4月は桜、4月から5月は樟若葉（くすわかば）、6月には花菖蒲、今の時期11月ですと道真公が愛していたという菊が、12月の中旬にわたって紅葉が見られるなど、自然を感じることができるのも、太宰府天満宮を訪れる醍醐味の一つです。

太宰府天満宮をお参りしたあとは、最後の目的地、甘味処お茶々に向かいます。自然あふれる隠れ家のようなこのカフェは、店内に入ると、まるで森の中にいるような

感じが味わえます。ぜんざいやフロート、地域で採れた山菜など、さまざまなメニューがあります。このようにして、五感を使って太宰府を楽しむというのはいかがでしょうか？

さて、私たちのこの旅では、走行距離16kmの全行程で電車と自転車を利用しましたが、ガソリン車を利用すると、どのくらいCO₂が排出されると思いますか？

今回私たちは、ペットボトルとスギの本数で、CO₂排出量を表しました。ガソリン車の場合、16kmを走ると、CO₂は約115kgも排出されます。2リットルのペットボトルに換算すると、29,312本も排出されたことになります。一般的に自家用車1台から1年間に排出されるCO₂約2,300kgは、80年生のスギ人工林160本の年間吸収量と同じくらいと考えられています。私たちの旅では115kgのCO₂を排出しますので、スギ8本分にあたります。電車は公共交通機関ですので、CO₂排出量をゼロとみなすと、これだけの量を削減することができます。

移動に伴うCO₂排出量は、生活分野の3割を占めているといわれています。決して小さい値ではありません。CO₂排出量を少しでも減らすためにも、環境への負荷の少ない公共交通機関やコミュニティサイクルを利用し、環境にも健康にもよい、賢い旅をしてみませんか？ 歴史、文化、環境について学べ、コミュニケーション、楽しさ、達成感があり、私たちがお勧めする旅です。ぜひ、試してみてください。

ご清聴ありがとうございました。

⑤報告4：「地域環境政策に対するネクストジェネレーションの視点

— 福岡市環境・エネルギー戦略（原案）作成手続きへの参画体験から —

長谷川春輝（西南学院大学法学部3年）、安倍朋弘（同法学部3年）（写真13）

先ほどご紹介にあずかりました、西南学院大学法学部法律学科3年生の長谷川、安倍と申します。

私たち2人は行政法に関するゼミに所属しているのですが、2014年4月にゼミで、福岡市が策定しました「福岡市環境・エネルギー戦略（原案）」に対しパブリックコメントを出す、という取組を行いました。これがきっかけとなりまして、私たちはその後、福岡市の環境・エネルギー方面の取組について学びアプローチする、貴重な機会を得ることができました。その成果をこの場でプレゼンできることを、非常に光栄に思います。

では時間も限られていますので、内容に移りたいと思います。スライドの目次をご

覧ください。私，長谷川がまず，1の「福岡市環境・エネルギー戦略について」を述べ，2の「次世代の視点から」については，安倍が述べます。

はじめに，福岡市環境・エネルギー戦略について話そうと思います。まず，私たちのこれまでの経緯についてです。2014年5月27日に私たちは，福岡市環境局の職員の方々と，意見交換会を行いました。そこでは，先ほど触れたパブリックコメントについての回答をいただいたり，福岡市の環境・エネルギー戦略について直々に説明を受けたりしました。

次に7月5日に，先ほど述べた意見交換会の成果を，福岡環境学際フォーラムの研究会で報告させていただきました。この学際フォーラムには，大学や民間企業，業界団体，環境教育関係など，多くの社会人の方々に参加していただきました。

この一連の参画体験で私たちが感じたことは，多々あります。私からは行政の広報活動という点について述べ，他の点につきましては，安倍が後ほど話します。

行政が実施する取組をいかに市民に知らせるか，というのは，どの地方自治体においても重要課題だと思います。もちろん最も大事なものは，政策や戦略の中身ではありますが，政策や戦略を効率よく実行するには，市民の協力が必要不可欠です。環境政策において，それはより顕著ではないでしょうか。職員の方々は，広報のやり方に試行錯誤されていました。そして私たち市民も，積極的に行政の動きを知ろうという姿勢を持つことが，非常に重要であると感じました。

次に，先ほど述べた一連の参画体験で学んだ，福岡市の環境・エネルギーに対する取組内容について，かいつまんで紹介したいと思います。

「福岡市環境・エネルギー戦略」の柱は，①地域に賦存する再生可能エネルギー等のエネルギー資源を最大限に活用し，エネルギー自給の向上を図ること，②エネルギー資源を地域内で効率よく利用することの推進，そして③産官学そして市民が参加し，恩恵を享受できる社会にすること，の3つです。

まず一つ目です。全国的に日本海側の地域は，太平洋側の地域に比べて日照量が少ないです。しかし福岡市は，日本海に面していながらも，太平洋側と同等の日照量が期待できる地域であり，そのために太陽光発電が再生可能エネルギーの中心となっています。加えて，福岡市は海と山に囲まれ，自然と共存している都市です。そのことから，一定の風況，河川水量が期待されるとともに，現在注目されている木質バイオマス燃料も利用でき，多様な再生可能エネルギーの導入が期待されます。

次に二つ目です。福岡市東区にあるアイランドシティでは，スマートコミュニティ

創造事業とよばれる取組が行われています。この事業は、地域に眠っているエネルギー資源を最大限に活用するとともに、環境負荷が少ないライフスタイルを推進する、「福岡市版スマートシティ構想」です。具体的には、エネルギーマネジメントシステムや電気自動車の導入促進、住民ワークショップの開催支援などが行われています。

そして三つ目です。福岡県では、環境にやさしい水素エネルギー利用社会の実現に向けて、全国に先駆け、産官学で「福岡水素エネルギー戦略会議」を設立しています。これには福岡市も大きく関わっており、産官学の協力が不可欠な取り組みを、総合的に推進しています。

ここで余談ではありますが、2014年9月下旬に九州電力をはじめ、いくつかの電力会社が、「固定価格買い取り制度」の中断を発表しました。私たちはこの件について、福岡市の方から回答をいただいたのですが、戦略の内容は現状維持とのことでした。とはいえ、福岡市の戦略は再生可能エネルギーに多くの比重を置いていることから、現在戦略の転換点を迎えているといえるのではないのでしょうか。

続いて安倍が、これまでの参画体験を通じて考えたことを、次世代の視点からまとめていきたいと思います。

私たちは、福岡市環境・エネルギー戦略（原案）を通じて、福岡市役所の方々や行政以外の環境分野の方々と交流してきました。

まず、2014年5月27日に、私たちは福岡市と意見交換会を行いました（図9）。そこで実感したことは、私たちでも行政と参画できるのではないか、ということです。また、福岡市は広報の観点から、SNS（Social Networking Service）が実際に有効性のあるものかどうかを知りたいということで、一般的な質疑ではなく、双方の対話がありました。

さらに、先ほど述べたように、7月5日の研究会で、これまでの研究の成果を披露する機会をいただきました。この研究会では、学生にはない視点の指摘が多数あり、私たちにとってよい刺激となりました。

最後に、参画体験を通じてこれから必要だと思うことを話します。

一つ目は、若者には持続可能な社会づくりの担い手として、将来どうあるべきかを見据えてほしい、ということです。今回携わった福岡市環境・エネルギー戦略の目標年度は2030年度ということで、長期にわたる計画です。2030年ともなれば、私たちの世代が中核になっているような時代だと考えます。よって、今の若者が将来どうなっているかを想像し、今やるべきことは何かを考えていく必要があります。

なぜ、今必要だと思うのか。先日国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」は、今世紀末までの気温上昇を2℃未満に抑えるという国際目標の達成には、産業革命以降の世界全体のCO₂累積排出量を、約3兆トンに抑える必要があるとの見解を示しました。しかし、すでに約2兆トンを排出していて、現在の排出ペースで行くと、あと30年で限界を超えるという見通しです。

このことから、環境分野の問題を後回しにすることは、将来に大きな負担を残すこととなります。将来を見据えるのは、早いに越したことはありません。そこで私は、小学生の時から持続可能な社会づくりをどう進めていくのかについて自分なりの意見を持つ、といったような教育環境を構築していくことが大事だと思います。

二つ目に、この戦略が福岡市全体の最適利益になるためには、さらに官民連携の推進が必要だと考えます。環境分野は市民生活に直結しますので、個別的利益ではなく市全体の利益になるように、行政は市民の理解と事業者の協力を得ることが大切です。

すでに福岡市では、30歳以下の若者を対象に広報運営委員を募集し、若者が主体的に啓発活動を実施しています。若者に関心を持たせるには、とても重要なことだと思います。市全体の最適利益になるために、やはり若者も利害関係者として参画することが重要だと感じています。

環境分野は、市民誰もが関係するものです。行政だけでは、とうてい解決できるようなものではありません。これからは、行政から一方的にではなく、行政と市民が双方向に通じ合い、一体となって取り組んでいく姿が実現すればいいな、と思っています。

以上、私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

⑥コメント&提言2：貞富まどか

（福岡市環境局環境政策部政策経営課広報啓発係係員、写真14）

福岡市環境局から参りました、貞富と申します。私から、先ほどの2件の発表に対してのコメントと、福岡市で行っている事業のご紹介と、今後の展望についてお話をさせていただきます。

まず、「ふくお環^{かん}たび」の報告についてのコメントです。

学生さんによる、環境のことを考える旅の企画をお聞きして、とても面白いなと思いました。環境を考えるという中で、やはり自分の住んでいる地域のことを知ったり、自分の地域を好きになったりということが、第一歩になるのかなと思います。そうい

うところで、地域の魅力を自分たちで考えて、みんなに感じてもらう体感型の企画を考えているところが素晴らしいな、と思いました。

そして、彼女たちが考えた企画で、お勧めのスイーツが出てきたり、かわいい動物が出てきたり、お花の紹介があったりなど、彼女たちらしい視点による企画になっていたのではないかと思います。ほかの人が同じ大宰府を題材にしても、きっと違う視点での企画になっていたのではないかと思います。そういう意味で、自分たちの感性で発信しており、そこがきっと、同じようなことに興味を持つ若い人に伝わる企画なのではないか、と思います。

次に、ネクストジェネレーションの視点による報告へのコメントです。

福岡市が環境・エネルギー戦略を作るにあたって、パブリックコメントという形で若いみなさんから提言をいただきました。先ほどと同じ、若者からの発信ではありますが、こちらは施策への発信ということで、かなり勉強したのではないかと思います。

こういった若い人の視点を取り入れるというのは重要で、行政がなかなか拾えていないところです。広報が大事であるとか、パブリックコメントの中では学生が参加するワークショップがあったらいいとか、多くの提言をいただきました。実際に、戦略の中にも反映されています。

若い人の意見から行政が学ぶことも多いですし、発信する側の学生も多くのことを学んでいると思います。自分たちが大人になったときのことを考えて参画する、という態度は、とても意味のあることだと思います。

今回、学生の自分たちにもできることがあるのだということを感じた、ということが、すごくよかったと思います。対話を通じて行政も若い人から学べますし、若い人も行政や社会に対して自分ができることがあるのだ、ということがわかります。社会というものは自分を取り巻く大きなものではなく、自分もそれに働きかけることができるのだ、ということを感じてくれたきっかけになったのでは、と思います。

先ほどの発表の中でもご紹介していただいたのですが、福岡市では若者の参加を促すための事業の一つとして、「環境啓発 U-30（アンダーサーティ）事業」を行っています（図10）。福岡市の若者の人口は、政令指定都市の中でも多いのです。若者を対象にしたこの事業は、平成19年から行っています。

この U-30 事業のコンセプトは、「若者から若者へ」、環境啓発を行うということです。30歳以下の若者を対象に広報運営委員を募集して、主体的に活動してもらっています。一番大きなイベントは、毎年12月に開催している「環境活動発表会」です。



写真13 報告 4



写真14 コメント&提言 2

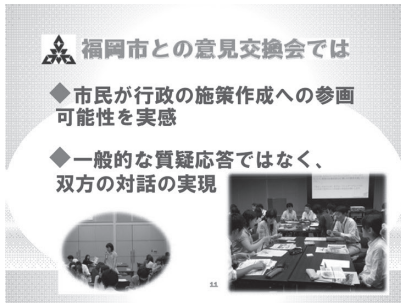


図 9 報告 4 のスライド



図10 福岡市の環境啓発事業

出所：福岡市環境局ホームページ〈<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-seisaku/hp/kyouiku-shien/U-30.html>〉

ホールを借りて、学生たちの企画で、普段環境活動を行っている学生団体が発表したり、参加した学生がワールドカフェ形式でお互いに意見交換したりしています。

実は、ふくお環^{かん}ゼミの研究発表会の中でも、U-30事業の発表をさせていただきました。2014年12月の発表会は、西南学院大学で開催いたします。行政と若者がますます深くつながってやれているのかな、と思います。

そして、今後についてです。

若者を対象とした事業というだけでなく、福岡市のいろいろな施策に若者の視点を取り入れていくのは大事だと思っています。福岡市としては、環境保全を進めていく上で、地域づくり、人づくりが大事なポイントであると考えています。行政だけでなく、いろいろな人が関わりながら、全体で環境保全を進めていくのが今後大事だと思

います。

本日いろいろな発表を聞かせていただき、若者の方からも積極的に環境のために発信したり、活動したりしてくださったりしていることを知り、とても頼もしいなと思いました。貴重な発表を聞かせていただき、ありがとうございました。

3. ふくお環^{かん}ゼミのこれまでの口頭発表実績

- (1) 小出秀雄「福岡超大学環境ゼミナールの取り組みについて」，第8回一橋・西南交歓ゼミ（研究発表会），一橋大学，2012年9月9日。
- (2) 小出秀雄「福岡超大学環境ゼミナール（ふくお環^{かん}ゼミ）の概要」，第16回（西南学院大学）大学改革フォーラム，西南学院大学，2013年6月19日。
- (3) 小出秀雄「福岡超大学環境ゼミナール（ふくお環^{かん}ゼミ）を通じた学生の基礎能力向上の模索」，第62回九州地区大学一般教育研究協議会，学際・キャリア・初年次教育部会 A，琉球大学，2013年9月6日。
- (4) 小出秀雄・鄭雨宗・樋口友樹・林純平・梶野純輝・安田忠義・岩田崇史・圖師絵里奈・仲光美優・鹿毛晴香・樋口敬晃・道上太久洋【西南学院大学経済学部小出秀雄ゼミ・福岡工業大学社会環境学部鄭雨宗ゼミ】「福岡超大学環境ゼミナール～「ふくお環^{かん}ゼミ」で創る学生の環^わ」，Q-conference2013ポスターセッション，PR タイム，九州大学伊都キャンパス，2013年11月2日。
- (5) 小出秀雄・岡重男「大学生が競う「ふくお環^{かん}たび」」，2013年度エフコープ環境助成金活動報告会，エフコープ生活協同組合（福岡県篠栗町），2014年5月17日。
- (6) 小出秀雄「福岡超大学環境ゼミナール（ふくお環^{かん}ゼミ）のねらいと実績」，私立大学環境保全協議会第28回夏期研修研究会，D グループ討議〈実践的環境教育プログラム実施に向けて〉話題提供，東北学院大学，2014年9月4日。
- (7) 小出秀雄「西南学院大学・福岡超大学環境ゼミナール（産官学民連携を活用した当ゼミのねらいと実績をご紹介）」，あいち・なごや ESD 交流フェスタ，ESD 活動団体の取組発表，久屋広場（名古屋市中区），2014年11月8日。
- (8) 小出秀雄・前田一美・岡重男・梅野遙菜・寺田沙織・積菜以子・長谷川春輝・安倍朋弘・貞富まどか【西南学院大学・福岡超大学環境ゼミナール】「ふくお環^{かん}ゼミ in なごや～福岡の大学生を育てる産官学民連携～」，ESD ユネスコ世界会議併催イベント「ESD 交流セミナー」，名古屋国際会議場，2014年11月10日。

4. ふくお環^{かん}ゼミのこれまでの誌面掲載実績

- (1) 小出秀雄 「「ふくお環^{かん}ゼミ」の超大学イベントの実施状況」,『西南学院大学経済学論集』(西南学院大学学術研究所)第48巻第3・4合併号,2014年3月,377-397頁。
- (2) 小出秀雄 「大学生がチームで企画し実行する「ふくお環^{かん}たび」」,『私立大学環境保全協議会 30周年記念誌』(会報第19号),2014年3月,48-49頁。
- (3) 小出秀雄 「福岡超大学環境ゼミナール(ふくお環^{かん}ゼミ)を通じた学生の基礎能力向上の模索」,『第62回九州地区大学一般教育研究協議会議事録』(九州大学基幹研究院),2014年3月,106-112頁。
- (4) 小出秀雄 「福岡超大学環境ゼミナール～「ふくお環^{かん}ゼミ」で創る学生の環わ」,『Q-Links STUDIES 2013(九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク2013年度活動概要)』,Q-Links事務局(九州大学),2014年3月,26頁。
- (5) 西南学院大学入試センター入試課 「環境問題について学ぶ基礎能力を高める「ふくお環^{かん}ゼミ」を実施」,『西南学院大学2015年度入学案内』,2014年6月,73頁。
- (6) 西南学院創立100周年事業推進室 「福岡超大学環境ゼミナール」,『西南学院Walker』,2014年6月,5頁。